

<NEWS RELEASE>

2026 年 1 月 28 日

WILLER 株式会社

イオンモール株式会社

WILLER とイオンモール、インドネシアのスマートシティ「BSD シティ」で オンデマンド交通の実証事業を開始 ～最適な移動手段が選択できる環境の構築により、交通渋滞緩和を目指す～

WILLER 株式会社(本社:大阪府大阪市、代表取締役:村瀬茂高、以下「WILLER」)はイオンモール株式会社(以下「イオンモール」)の協力を得て、インドネシア・ジャカルタ郊外のスマートシティ「BSD シティ」において、オンデマンド交通の実証事業を、本日 2026 年 1 月 28 日(水)～2 月 26 日(木)までの約 1 か月間実施します。

本実証事業において、地域の交通課題の把握や利用ニーズに応じた海外向けユースケースの作成、社会実装に向けたビジネスモデル検討を行います。



インドネシアの都市部では、マイカー依存や家族による送迎が日常化しており、交通渋滞を引き起こす大きな社会課題となっています。本エリアでは、ファースト/ラストワンマイルの移動サービスが充足しておらず、利用者が状況に応じて最適な移動手段を選択できる公共交通の整備が求められており、時間帯・目的・価格などニーズに応じて最適な移動手段を提供できる仕組みを構築することが急務となっています。

この課題を解決するため、本事業では、インドネシア政府が推進する「15-Minute City 構想(※)」に基づき、「BSD シティ」内の居住者・来訪者の多様な移動需要に対応するため、イオンモール BSD シティを中心に、現在 Phase3 として開発中の Hiera 地区を含むエリアにジオフェンスを設定し、利用者がアプリで呼び出すエリア型オンデマンド交通を運行します。これにより、鉄道駅、商業施設、住宅地、大学、病院など複数の拠点をシームレスにつなぐ移動環境を構築し、地域全体の回遊性向上を目指します。

WILLER はこれまで培ってきた技術と運行ノウハウ、ASEAN 地域での MaaS 実装経験を活かし、イオンモールは現地パートナー連携や地域住民、来訪者が集う生活のハブとしての役割を担い、商業エリアを中心とした回遊導線の最適化や移動の利便性向上に取り組めます。

WILLER は、今回の調査・実証で得られた結果を基に、将来的にインドネシア国内の郊外地域へ横展開が可能な、持続可能なビジネスモデルの構築を目指します。

※自宅から徒歩、自転車、公共交通機関で 15 分以内に生活公共施設へアクセス可能なまちづくりを目指すこと。

<実証の概要>

- ・実証期間: 2026 年 1 月 28 日(水)～2 月 26 日(木)
- ・運行時間: 7:00～22:00
- ・運行車両台数: 2～3 台
- ・料金: 無料
- ・乗降場所: 運行エリア内 145 箇所の仮想バス停にて乗降可能
- ・詳細: サイト(<https://willers.com.sg/mobi-bsdcity>)をご確認ください。

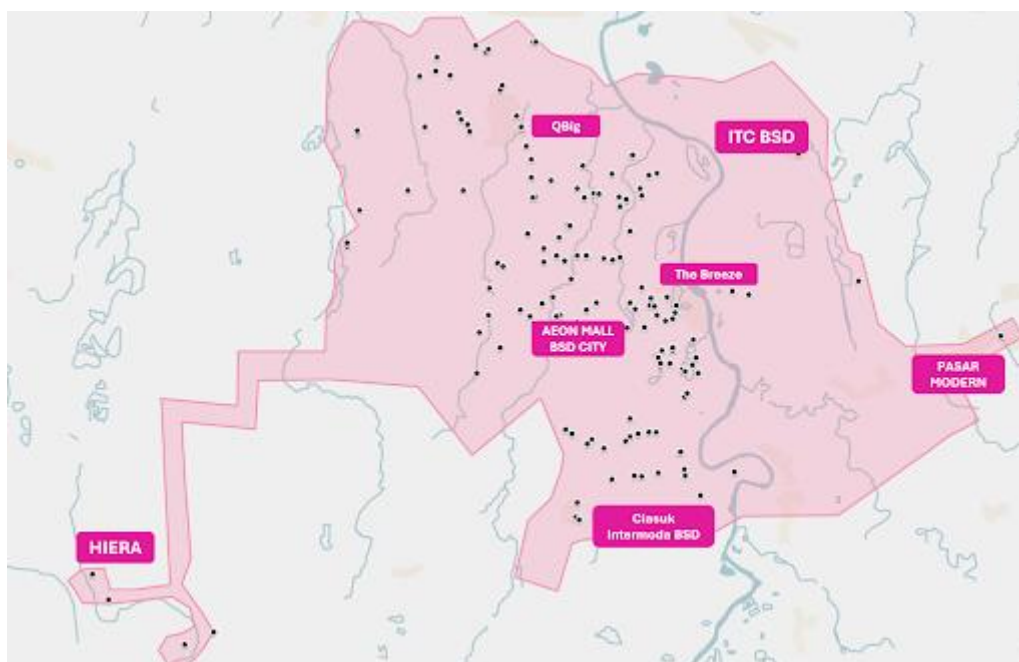


図: 実証運行エリア